

氏名	中村 美奈子 NAKAMURA Minako
所属 職名	人間文化創成科学研究科文化科学系 准教授
学位	芸術学士（東京藝術大学）、人文科学修士（お茶の水女子大学）
専門分野	民族舞踊学、舞踊記譜法、ダンスとテクノロジー
URL	http://buyou1.li.ocha.ac.jp/Nakamura/index.html
E-mail	nakamura.minako@ocha.ac.jp

研究者キーワード / Keywords

舞踊人類学
舞踊記譜法
インドネシア
舞踊動作分析
舞踊アーカイブ

Anthropology of Dance
Labanotation
Indonesia
MotionCapture
DnaceArcive

主要業績

Minako Nakamura, Yukito Kado, and Kohji Shibano, Developing a Digital Archive of the Works of Tatsue Sata, a Leading Creator of Japanese Modern Ballet; Journal for the Anthropological Study of Human Movement(JASHM),Vol.16,No.1& No.2. April,2010.(http://jashm.press.illinois.edu/16.1_2/index.html)

中村美奈子:「インドネシア・バリ島の舞踊の動作分析?文理融合型の民族舞踊研究の視点から?」,『舞踊学の現在?芸術・民族・教育からのアプローチ』,遠藤保子ほか編,文理閣,pp.178?191,2011年3月

Worawat Choensawat, Sachie Takahashi, Minako Nakamura, Woong Choi, and Kozaburo Hachimura, Description and Reproduction of Stylized Traditional Dance Body Motion by Using Labanotation; Transactions of the Virtual Reality Society of Japan, Vol.15, No.3, pp.379-388, Sep.,2010

Minako Nakamura & Kunihiro Oda, "Musculoskeletal simulation of dance movement by using Motion Capture System: A case study of the basic walking movement of Balinese dance", Human Body Motion Analysis with Motion Capture (International Symposium),Ritsumeikan University(Kyoto) Jan.29,2011

Worawat Choensawat, Sachie Takahashi, Minako Nakamura, Kozaburo Hachimura, "Description and Reproduction of Noh Body Motion by Using Labanotation"人文科学とコンピュータシンポジウム「じんもんこん2010」,pp285-290,東京工業大学（東京）,2010年12月11日

研究内容 / Research Pursuits

筆者は、インドネシア・バリ島の舞踊などアジア地域の民族舞踊を研究対象とし、その舞踊の技法、表現特性、舞踊構造の分析を行っている。2010年度は、電子ジャーナルJournal for the Anthropological Study of Human Movementに最終年度の基盤研究（C）「日本の創作バレエ作家に関するドキュメンテーションとアーカイブ化?佐多達枝を中心に」の研究成果を掲載した（2010年4月）。また、舞踊学の教科書として「舞踊学の現在?芸術・民族・教育からのアプローチ」（遠藤保子ほか編）に、分担執筆者として「インドネシア・バリ島の舞踊の動作分析?文理融合型の民族舞踊研究の視点から?」を執筆し、出版した（2011年3月）。立命館大学GCOEの客員研究員としては、モーションキャプチャ国際シンポジウムにおいて「モーションキャプチャ技術を用いた舞踊動作の筋骨格シミュレーション」（モーションキャプチャとSIMMを用いたバリ舞踊の分析）についての研究発表を行い、共著論文として、舞踊記譜法Labanotationのコンピュータ用エディタの研究にかかわった。

■ 教育内容 / Educational Pursuits

舞踊教育学コース所属の学生らのほとんどは、バレエやモダンダンスなど西洋の芸術舞踊を実践してきている人たちである。筆者の教育目標は、さまざまな身体表現、舞踊表現が世界には存在すること、また、舞踊は、その社会文化的背景と深く結びついた表現様式をもっていること、そして、舞踊は芸術的なものだけではなく、民俗芸能のように社会的な機能をも果たしていることを講義や実技を通して学生に伝える◆アとである。2010年度は、常設の専門教育科目に加えて、後期に21世紀型文理融合リベラルアーツ「舞踊における色・音・香」を開講し、朝鮮舞踊の舞踊家（金剛山舞踊団）や西アフリカの民族楽器奏者など、実演者を招いての文化と舞踊を考える授業を行った。大学院の授業では、民族舞踊の舞台化にともなう舞踊の内容や形態の変容に関して、セネガル（アフリカ）人による著書とバリ（インドネシア）人による著書の文献購読を通して考察した。

■ 研究計画

文化人類学から情報学までさまざまな領域の研究者らとの学際研究を通じて、舞踊および身体表現に関する研究を行ってきた。今後も幅広く身体文化、身体表現、身体運動の解明にかかわる研究をしていきたいと考えている。また、無形文化財のデータベース（アーカイヴ）化、特に舞踊や身体表現に関するデータのアーカイヴ化についての研究は事例が少なくメタデータの整理も進んでいないことがプロジェクト研究を通して分かってきたので、これらの点についても検討を行っていきたい。

■ メッセージ

舞踊は、その社会文化的背景と深く結びついた多様な表現様式があること、そして、舞踊は芸術的なものだけではなく、民俗芸能のように社会的な機能持つものもあることを是非みなさんにも知ってもらいたいと思っています。同時に、バリ島の舞踊は見てると緩やかで楽しそうですが、実は中腰の姿勢で踊るのはいかにきついかということを是非実技授業で体験してください。「伝統的」な舞踊の研究をしている私ですが、実は大変な新しいもの好きで、共同研究のほうでは、1998年頃からずっとモーションキャプチャという装置で舞踊の3次元計測をしてきています。舞踊とデジタル技術がどうつながるのだろうと不思議に思われる人もいるかもしれませんが、この方法論は、現在では、舞踊学の一分野のようになっています。